

航空業における動作の反動無理な動作災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
3	12~13	後方客室内にて、機内迷惑行為を反復している旅客がいた。粗暴旅客の足をロープで押さえようと拘束する際に、旅客が蹴る仕草をしたため、避けようとし、腰を負傷した。	43	1000 ~ 9999
3	8~9	機内にて旅客搭乗に向けた準備中、新聞の束の入った袋を移動しようと持ち上げた際、腰に痛みがはしった。自己判断で、痛みはあるものの乗務を継続していたところ、飛行中の揺れや着席中の振動が腰に響くような痛みがあった。	30	1000 ~ 9999
5	12~13	乗務中、機内後方通路（座席35Cと35Hの間の通路）にて、カートを使用したドリンクサービス中、突然の縦揺れが発生し、カート上のポットなどを手で押さえたところ、右頸筋から肩に掛けて違和感を感じた。直後に痛みは発症せず、痛み止めを服用しながら乗務を完遂した。その後、しばらくして右頸筋から肩にかけて強い痛みが発症した。	23	—
6	10~11	客室後方の左側乗務員席に着席し、着陸に備えた姿勢をとっていたところ、接地の際の衝撃により、左首筋に痛みを感じた。	41	1000 ~ 9999
7	11~12	カウンターでの業務中、受託したバッグをベルトコンベアーへ流すために、バッグを持ちベルトコンベアーへ倒そうとした瞬間に腰部を痛め、立ち上がれない状態となった。	21	500 ~ 999
7	13~14	工場内の圧縮梱包機周辺で飛散した廃プラスチックのゴミをエアガンで清掃していたところ、機械の下に潜り込み機械の可動部まで進入してしまい、自動運転で動き出したフィルム梱包機の回転運動に被災者の頭部が挟まれてしまい負傷してしまった。	42	1000 ~ 9999

7	18~19	工場内ヤードで、橋梁の横桁のたたみ作業及びふだ付作業をしている時隣で、横桁の漆接板をクレーンでばらしていた。クレーンオペレーターが玉掛合図者の巻き上げストップの合図がわからなかったため、H桁に並べてあった横桁が崩れ下敷きになり足を負傷した。	25	500 ~ 999
7	18~19	着陸時、窓の外を見てまもなく接着すると認識した上で、脚は垂直におろし、手でCAシートを持つ姿勢で通常の着座姿勢を取った。着陸と同時にガツンと体にくる強めの衝撃を感じ、鋭い腰の痛みを感じた。窓側の頭上物入れが開き、窓側の酸素マスクが落下した。肩・背中の痛みや違和感を旅客降機の機内整理時に自覚し、旅客降機後責任者へ報告。	29	1000 ~ 9999
7	18~19	周辺の天候がやや不安定であった。着陸の際、窓から外を見て着陸するタイミングを把握し、脚を垂直におろして座席に深く腰掛けた状態で背中を背当てにつけ、手でCAシートを持つ姿勢で通常の着座姿勢を取っていたが、着陸時にやや強い衝撃を感じた。その際に、首から背中上部にかけて痛みを感じた。機内25ABC上の酸素マスクが落下、13ABC頭上物入れが開いた状況だった。勤務終了後、遅い時間であったため、そのまま帰宅した。	24	1000 ~ 9999
9	2~3	前方側にあるキッチン内で、コーヒーマーカーで作ったコーヒーをコーヒーマーカーのポットからお客さま提供用のポットに移しかえている時、突然予期せぬ揺れがあり、両手がふさがっていたためにすぐに固定物につかまることができず、両足で踏んばった。体が浮くような状態になり着地した際に、左の腰のあたりに違和感をおぼえた。	30	1000 ~ 9999
9	13~14	出発するために、旅客搭乗後、機内客室中央通路の手荷物収納棚を閉めようとしたが、手が届かなかったため、座席横足掛けに乗って閉め降りた。その際、収納棚の重みがかかり右足ふくらはぎに激痛を感じた。その後、右足ふくらはぎは腫れていた。	53	1000 ~ 9999
9	11~12	客室巡回中に揺れが発生、急いで着席しようと自席に向かう途中で揺れが大きくなり、客席にもたれかかった際に腰をひねった。	38	500 ~ 999
		旅客機が出発時、客室前方通路で旅客搭乗中旅客の手荷物（キャリーバッグ）を		1000

9	18~ 19	手荷物収納棚に収納するのを援助していた際、旅客が急に手を放した為、手荷物が落ちないように支えた、その時バランスを崩し、腰に鈍痛を感じた。	45 ~ 9999
9	1~2	離陸15分後、前方ギャレーにて機内サービスの準備を開始した際、床面に500円硬貨2個分程度の大きさの濡れがあり足を滑らせた。斜め外側方向に左膝を向けてしまい、無理な力がかかり足をひねり受傷。当該患部を瞬間冷却パックで冷却を実施し、帰国まで市販湿布薬および包帯にて冷却・固定をした。	32 ~ 1000 9999
9	13~ 14	乗務中の機内、客席20列目前後付近にて、機内右側の乗客用収納スペースの荷物整理を行った際、乗客の荷物（リュック2個、ボストンバック1個）を左から右へ動かそうとしたところ、荷物が重かったため腕に力を込めて押した、咄嗟のことで無理な力がかかり、腕に激しい痛みが走り負傷した。	29 ~ 500 999
10	17~ 18	着陸を認識し、乗務員用シートに通常の着座姿勢を取っていたが、大きな音とともに強めの衝撃があった。一部の旅客はびっくりした様子で、小さく声をあげている人がいた。腰に強く負荷がかかるのを感じたものの、痛みは無かったためチーフパーサーへの報告はしていない。次便乗務終了後、自宅への帰宅途中から徐々に痛みが出てきた。	27 ~ 1000 9999
10	15~ 16	空港内（受託手荷物仕分け場）にて手荷物（スーツケース等）仕分け作業中に腰部にやや痛みを感じていたが、そのまま作業を続けていた。その約2時間後、航空機側での作業へ移り、航空機貨物室ドアサイドにて手荷物をとりおろした際、再び腰部に激痛が走り作業できない状態となった。	26 ~ 300 499
11	20~ 21	到着Bag取りおろし作業中、腰の高さ程度のLDLブリッジデッキからカバンを降ろしている際、25kg前後のカバンを数個降ろしたところ、右脇に違和感を覚えた。翌朝以降も痛みがあり、後日激痛があったため、病院を受診したところ、肋骨骨折と診断された。	51 ~ 100 299
12	17~18	乗務員用座席に着席中、ビジネスクラス最後列座席裏に収納していたアメニティーが離陸滑走の反動で滑り出てきたため、左に体を捻りながら拾った。事象発生直後や乗務中は痛みや異変はなかったが、宿泊先ホテルに到着し約14時間経過後、背骨の中央下部あたりに何かが刺さるような痛みが生じた。一時的な痛み	24 ~ 1000 9999

であると自己判断し、復路便も乗務した。2日間様子を見たが、痛みが治まらなかったため整形外科にて受診した。

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html